

会 議 録

1 会議名

令和6年度第8回吉川区地域協議会

2 会長挨拶

3 議題（公開・非公開の別）

・報告事項（公開）

（1）会長報告

（2）委員報告

（3）事務局報告

・自主的な審議（公開）

（1）自主的審議事項「吉川区における若者の移住定住につながる魅力的な子育て支援策について」

（2）自主的審議事項「消火栓使用の在り方と有効活用について」

・その他（公開）

4 開催日時

令和7年1月23日（木）午後6時30分から午後8時09分まで

5 開催場所

吉川コミュニティプラザ 3階 大会議室

6 傍聴人の数

0人

7 非公開の理由

なし

8 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委 員：薄波副会長、太田委員、斉藤委員、関澤委員、田中委員、田邊委員
新部委員、橋爪委員、武藤委員、山岸会長

・事務局：上越市創造行政研究所 内海副所長、須藤主任

吉川区総合事務所 風間所長、渡邊市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長兼務）、平原総務・地域振興グループ班長、熊木総務・地域振興グループ副主幹

9 発言の内容（要旨）

【平原班長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 委員 10 人の出席を報告
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 会議録の確認：田中委員

【山岸会長】

- ・ 挨拶

【平原班長】

- ・ 議長の選出について、上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により山岸会長から議長を務めていただく。

【山岸会長】

（上越市新年祝賀会、吉川区新年を祝う会について報告）

- ・ 次に委員報告をお願いします。

（声なし）

- ・ なければ、事務局報告をお願いします。

【平原班長】

（「地域自治の理想的な姿及び取組の方向性に関するヒアリング・アンケート調査集計結果（速報）の送付について報告）

【山岸会長】

- ・ 質問、意見はないか。

（声なし）

- ・ 次に 4 自主的な審議に移る。初めに「吉川区における若者の移住定住につながる魅力的な子育て支援策」について、上越市の人口問題などについて研究されている上越市創造行政研究所の副所長と担当職員から来ていただいている。これから吉川区の人口動態についてお聞きし、今後の自主的な審議の参考にしたいと考えている。それでは上越市創造行政研究所の須藤主任、よろしくお願いします。

【上越市創造行政研究所内海副所長】

（挨拶と上越市創造行政研究所の紹介）

【上越市創造行政研究所須藤主任】

(資料「上越市及び吉川区の人口動態について」により説明)

【山岸会長】

- ・意見、質問はないか。

【斉藤委員】

- ・7 ページの上越市内地区別の人口増減率（1970→2020）を見ると吉川は 57%減であるが浦川原は人口減少率が 47%で 10%の差がある。どのような要因が考えられるか。

【上越市創造行政研究所内海副所長】

- ・一つは浦川原という地域には安塚や大島から移ってこられる方が若干いて、その受け皿になっている面もある。また、市街地に通勤するのにも比較的便利で、スーパーもあるし、上越市内で働いていても住みやすいという声を聞く。

【新部委員】

- ・今の分析は正しいと思う。浦川原は転入と転出を分析すると安塚や大島から越してくる人が結構いると思う。同じように転出が多いが、三和も 30%減というのは、団地があつて平らだから中山間地から越してくる人が多い。逆に吉川に越してくる人というのは、長峰には中山間地から越してくる人はいるが、吉川全体では受け皿にならないからこのように浦川原と比べると 10%の差になっているのではないかと思う。

【上越市創造行政研究所須藤主任】

- ・今、吉川区が中山間地域から移ってくる受け皿となることは、なかなか難しいのではないかという話があつた。これはあくまでもデータ上の話だが、この 2015 年から 2020 年の間、吉川区内で 120 人くらいの人口の移動がある。これが吉川区内でどこからどこかへの移動かというのは、分析しないとわからないが吉川区の中で転居されている方も実態としてはあるので、分析を行うことで要因の把握ができる可能性はある。

【斉藤委員】

- ・16 ページの「上越市内地区別の年齢構成」を見たが、「0～14 歳」が浦川原と吉川では、浦川原の方が多い。「15～64 歳」は変わらず、「65 歳以上」もほぼ変わらない。子どもたちが多いというのは地域マルシェとかいろいろやっているからなのか。

【上越市創造行政研究所内海副所長】

- ・さきほどの話に寄せて話すと、例えば安塚、大島等で住んだ方が結婚したり、子ど

もが生まれた時に新居を求める際、浦川原に移ってこられるとか、子どもがいて市街地で働いている方が、浦川原にとどまり住んでおられるということだと思う。おそらく出生率が高いからというよりも、その結果として子育て世帯がより多く住んでおられると捉えていただいて良いと思う。

【山岸会長】

- ・ほかにいかがか。

【太田委員】

- ・私の地区の隣が浦川原とか大島なのですが、やはり国道という幹線が通っているし鉄道も影響していると思う。学校も十日町に行ったり、色々な所に動ける。吉川の人も松代に行ったり十日町に行ったりする人もいる。そういうことも影響しているのではないか。

【山岸会長】

- ・ほかにいかがか。

【上越市創造行政研究所須藤主任】

- ・今、浦川原と比較してという話題があった。これはデータに基づいた話ではないが、移住者という観点で見ると、浦川原は市外からの移住者の数は多くはないということを浦川原区の職員から聞いたことがある。逆に吉川区では川谷などで移住が進んでいる。どちらが良いという話ではないが、移住者の確保という観点では浦川原区では積極的に取り組んではいないが、逆に吉川区の方が先進的に取り組んでいるところもあるので、人口という観点から見ると少しずつにはなるが、そういう取組もこれから重要になってくると思う。

【山岸会長】

- ・いかがか。

【新部委員】

- ・結論から云々という話ではないが、今日こういう話を聞いて吉川区としてもやる、やらないではなくて、やらなければならないと思う。牧区とか大島区は減少が激しい。ただ、黙っていれば吉川区も同じである。人口減少は人口が減少するだけでなく商工業や農業についても廃れて行ってしまう。田んぼも建築業もみんな廃れてしまう。それを何とかしなくてはいけないという危機感を持っている訳だから何かしなくてはいけない。ここでこの10人が話してどうこうというのではなく、やはり今話しているように異業種というか色々な意見を持っている人をマッチングさせる

というきっかけを地域協議会で作るのは必要かと思う。浦川原にしても大島にしても1年、2年でできている訳ではないので、同じような真似をすることが必要なかと思う。柿崎とか大潟とは少し違う。ただ、国道がないが、吉川も結局新井・柿崎線を中心に交通もそんなに悪くないし、駅がないと言えないが、子どもたちは上下浜なりに行って学校に通っている。柿崎や吉川はほかのまちと比べると柏崎の方にも行けるし、直江津の方にも行けるという利点もある。学校一つにしても、柿崎と吉川くらいだ。ほかのところでは柏崎に通うのは厳しいが、吉川にはその辺のメリットもある。地理的な話と言うのは、どうしようもない話なので、駅をつくる訳にもいかないし、道をつくる訳にもいかないで、その中で何かしなければならなかったと思った。この数字を出されるとそう思う。

【山岸会長】

- ・ほかにいかがか。

【関澤委員】

- ・今、新部委員が言われたとおり、いずれにしても、それが実施できなければ何にもならない。何をすれば良いのかの「何を」がわからない。行政の皆さんは、この吉川の現状を見てどういう姿で何をやればよいのか。もう少しワークショップだとか「吉川は住み良いですよ。」とか、今年もまたコウノトリの巣が大きくなってきたとか、そういう自然を愛する事業とかで交流人口を増やして、自分たちが誇りとすることをもう少しPRした方が良い。それには資金も要る。何かしなければ、このまま行けば人口が千人切れるだろうというのは、みんな危機感を持っていると思う。しかし、もがいても仕方がないということになれば、歳をとっても病院がある、福祉施設もある、ここで安心して暮らしていけるというのでも良いのではないか。無理して人口減少を食い止めると言ってもと思う。平成17年に上越市と合併したが、合併協議会で柿崎、吉川、大潟、頸城の5万人くらいの市で落ち着いた方が良いという考えの人もあの当時いたと私は認識している。終わった話ではあるが、あまりにもこの合併は大きすぎた。

【山岸会長】

- ・吉川と言うと皆さん「山」という認識を持っていると思うが、県道新井柿崎線近辺は「山」というイメージはない。吉川は奥が深い。面積もある。そんな方面から橋爪委員いかがか。

【橋爪委員】

- ・資料を読んで具体的な数字を示されたので、色々なショックもあるが、感じるのが吉川の半分はほとんど困っていないくて、少しの人がかなり困っていると感じる。先ほども話があったように新井・柿崎線は吉川の都会だ。柿崎を通って柏崎にも、直江津にも行ける。店もすぐ近くに色々あって、そんなに悪くない。私は天林寺に住んでいるが、それでも少し車に乗れば柿崎、大潟区に行けて、そんなに困ったというのではないが、その奥に行くとやはり大変である。そこから雪の量も違う。そこをどういう風に全体の中で話し合って、先ほどワークショップという話もあったが、どうやってまとめて行くか、課題がかなり違うと思う。それが難しくて、大変だというのが、「大変」の大小、内容、課題が全然違う中でどのようにまとめるかというのが、色々な所で吉川の活性化について話し合われているが、まとまらないところにそういう問題があるのではないかと考えている。さらに定住してもらうために移住された方がどのくらいの収入があれば定住できるのだと、それも直江津地区と吉川地区と頸城地区とでは違うと思う。街に行けば行くほどたくさん必要でしょうし、吉川とは違うと思う。そういうところも変わってくるので、ワークショップをするにしてもきめ細かい内容でやっていただかないと非常に難しい。差が激しい所だからこそ非常に難しいと思う。

【山岸会長】

- ・何かあるか。

【上越市創造行政研究所内海副所長】

- ・おっしゃるとおりだと思う。今日は持ってこなかったが、旧小学校区単位や町丁字別単位のデータもあるので、我々として実際進めていくときはそういうものを見ながら行うようにしている。

【上越市創造行政研究所須藤主任】

- ・先ほどの人口のシミュレーションも吉川区全体として推計した。まだ固まっていないが、吉川区内の分館の地区ごとに人口のシミュレーションも行っている。例えば源地区は人口減少が厳しい地区であり、3、40年後には2、30人になるという推計になっている。もちろん今の状況が続けばという前提にはなる。逆に吉川地区でも人口は現時点でも多いが同じように3、40年後には100人レベルになるというところもある。吉川区内でも地域によってデータで見る人口減少の厳しさと生活レベルで感じている厳しさは違うと思う。大小は多少あるが、厳しいという状況そのものは変わらないのではないかと考えている。

【橋爪委員】

- ・数字の減少はそうだと思う。ただ、今いる人の考え方が先ほど言ったことの中にあるのではないかということである。

【山岸会長】

- ・ワークショップというのもほかではやっているが、行政としっかりとタイアップしないと我々がそんな声掛けしても、なかなかそこに入ってくる人って何だろうと思う。行政としっかりとタイアップしないとそういうことはできない。データはこうやって出していただくとわかりやすくて良いが、例えば、15 ページの人口の推移を見ても高齢者は余り感じないが、生産年齢人口が減って、子どもの方も減っている。私は大きな要因に、若い夫婦が同居したがる、核家族化で出て行ってしまふというのがあると思う。4 年前の地域協議会の中で、ここに移住された方に「なぜ吉川を選んだのか。」と聞いても、たまたま吉川だっただけで吉川だからといってきた訳ではない。では、出ないようにするにはどうしたら良いか。ワークショップを開いて直接お聞きした方が良いのだろうが、ほかの区はどこが声掛けしてワークショップをやったのか。

【上越市創造行政研究所須藤主任】

- ・ワークショップの話をすると、今回の3区に関しては総合事務所の職員にも頑張っていたいて、総合事務所の職員と住民の皆さんと一緒にタッグを組んでやってきたというのがかなり大きいところであったと考えている。我々も総合事務所も住民の皆さんと協働して取り組んできたが、互いに本音ベースで話していくことも必要だと感じた。昨年度実施した3区に関しては、職員と住民が一緒にやってきたというところも少しずつ今年度に繋がっている要因の一つかと思う。

【上越市創造行政研究所内海副所長】

- ・話しづらいが、別の側面もある。大島、浦川原、牧では、集まっていた住民の皆さんが、行政に対して「もっとこうしてくれ、ああしてくれ。」ということではなく、私たちのまちがどういうまちになったら良いかということと一緒に考えようと、お互いに胸襟を開けて和気あいあいとやれたのが上手くいった理由の一つと思う。そこで対立構造を生んでしまうとうまくいかなかったのも、それがなかったというのは大きかった。
- ・あと上越市内ではわからないが、全国の事例を見ていくと、例えば先ほどの源地区

と似たような地区でも人口がV字回復しているような地域もある。また、夫婦の同居については、女性の方が男性の親と同居するのは嫌だが、男性の方が女性の親と一緒に住むなら良いというパターンもあるようである。そういうパターンも含め、皆さん色々なライフスタイルがあるので、この地域にあった人はどういう人かと前向きに考えていただくと何かアイデアが出てくるかもしれない。

【山岸会長】

- ・ほかにいかがか。

【田邊委員】

- ・この質問にあっているかわからないが、私が勤め始めた時に「お前、源にいるから、ここで子どもを育ててくれれば人口も増えて良い。」と私に言っていた人の息子は出る、次男も出る、みんな出てその家の人皆いなくなった。何度も私は勧められたのに、なんで皆出て行っちゃったのだろうとすごく複雑な気持ちになった。多分、私の息子は過疎化で学校の友だちも少ないし、遊びに行くにも親が送り迎えと言う状態だったので、ここで生活するのは難しいと言う。「もし、自分が結婚してママみたいなことをするとなったら、やっていけない。」と言っている。そうなった時に、私は止められない。自分も苦労してきたのに、それを子どもに言われたら、「まあ、そうだろうなあ。」みたいになる。まして、周りも子どもがいない、結婚している方がいなければなおさらである。上の子は地区に4人同級生がいたが、下の子は一人もいなかった。そうするとこれ以上ここに置いておくのはかわいそうだと思うことがあって複雑な気持ちだ。確かに、家を継いでそこにいてくれればありがたいし、人口も増えるのかもしれないが、私が子どもに無理を言って、いてくれとは今は言えないと思っている。

【山岸会長】

- ・ほかにいかがか。

【田中委員】

- ・私も何の目的もなく移住してきた。今、出て行かない理由としては子どもがいて、それなりに楽しくやっているというのがある。引っ越してきたときに、働きにいかなくてはいけないというのが、すごく大変で雪もあるからそこでお金が稼げれば良いが通勤しなくてはいけない。吉川の中だけで、外への通勤がなければ良いところである。景色も良いし、環境も良い。そういったところはすごく好きでここに決めたということもあった。何かもったいない。もっと本当は一日ここにいたいのにい

れない状況なのかと感じて生活している。また、先ほど交通の話があったが、子どもたちの交通手段のところで、そんなに不便ではないという先ほどの意見は、やはり車があるからだと思う。子どもたちが電車を使ったり、バスを使ったりするようになった時に、そこの支援は必要なのではないかと思う。浦川原には駅がある。柿崎もあるからずっと思っていた。先ほどそんなに不便でないというのを聞いて、親の手を使わなくても何とかなるような移動手段が確保できれば子どもたちも住み続けられる。川谷などに移住してきた方々も、子育てををするとなるとすごく大変だと思う。私は原之町に住んでいるが、それでも不便だと思うところがあるので、子どもたちを育てられない、学校に行くのも大変、友だちと遊ぶのも大変という状況がやはり定住に繋がらない一つの要因だと感じている。

【山岸会長】

- ・ほかになれば、ここで上越市創造行政研究所の職員が退席される。

(上越市創造行政研究所内海副所長、須藤主任退席)

【山岸会長】

- ・データをしっかりと聞いた。行政とタイアップして皆さんの意見も伺うワークショップも当然やって行くべきだが、それをどうやってやるか。やはり問題があると思う。要するに吉川区から出て行く人をどれだけ減らせるか、入る人を増やすというのはなかなか厳しい。職場もないし。前に言った特区制を取れないかと思っている。ここは環境が良いから居住区にすれば良い。確かに公共交通を市の方は負担がかからないようにしているが、交通の便をしっかりと維持しながら色々な部分で特性を取って支援があればここに住む人も来るのかもしれないし、出て行く人も減るのかもしれない。その辺を各世代の意見をどこかで拾えればと思う。今後皆さんとどういう形で進めるかを相談していきたいと思う。当然、総合事務所にも我々以上に一生懸命動いてもらわなければならない。少なくともワークショップをするには、我々が声を出してもなかなか乗ってこないと思う。
- ・それでは、今後の進め方は、またで良いか。今後皆さんの中でアイデアを膨らませていただいて総合事務所とタイアップでせめてワークショップみたいな皆さんの意見を拾う場所が作れば良いと思う。それでは、(2)自主的審議事項「消火栓使用の在り方と有効活用について」に移らせてもらう。事務局、説明をお願いします。

【熊木副主幹】

(意見書を市長宛て提出した旨を報告)

【山岸会長】

- ・皆さんから意見書に関していろいろな意見を述べていただき感謝する。今、事務局から説明があったとおり意見書を提出したので、何らかの返答が来ると思う。早々「はい、そうですね。どうぞ。」と言うことにはならないと思うが、その後もどうするか皆さんと協議したいと思う。皆さんから何かあるか。
- ・なければ、ほかに皆さんから協議したい案件はあるか。

【太田委員】

- ・少し気になったが、吉川診療所の体制が非常に良くないと私は思う。12月前からまともに診療予定が組めていない。防災行政無線を聞いていると、いつも「いつからいつまで診療所は休みます。」と一方的な話で皆さん大変困っているのではないかとと思う。何とかならないのか。先生がいなかったために、診療は外部から来てもらっている。吉川区の健康を守ってもらう診療所がこの状態で良いのかと思う。ある人は上越総合病院に行ったら、紹介状がないため7千円取られたと言っていた。そういうこともあるので、もう少しうまく運営してもらうような方法をお願いできないかという相談である。

【山岸会長】

- ・事務局、これに関して何かあるか。

【風間所長】

- ・これまでおられた先生が、12月末で辞職された。太田委員からもあったが、無くしてはいけない施設であるので、急遽近隣の上越総合病院、上越地域医療センター病院等から医師の派遣をしていただきながら、診療している状況である。4月からは、しっかりした体制が組めるように、代わりの先生が決まりそうな状況である。1、2、3月は上越総合病院と上越地域医療センター病院と知命堂病院から専門科が別になるかもしれないが、先生に来ていただいて診療を続けている状況である。無くすつもりもないし、運営の安定を図っていくように努力している。4月からは見込みが付きそうのところまで来ているので、もうしばらくお待ちいただきたい。

【山岸会長】

- ・ほかにないか。なければ5その他に移る。委員から何かあるか。
(声なし)
- ・事務局からあるか。

【渡邊グループ長】

- ・吉川体育館の使用休止の連絡をする。吉川体育館は、照明器具を LED 化するための工事を 2 月 5 日から 3 月 7 日まで行う予定である。その間、体育館アリーナを利用休止とさせていただきたい。周知は、利用団体には連絡済みである。また、体育館にも使用休止のお知らせを掲示している。広報はまちづくり吉川だより 1 月号に掲載し、お知らせしている。定期利用の皆さんには他の施設や吉川小学校、吉川中学校の体育館をご利用いただくことになっている。ご迷惑をお掛けするがよろしくお願いする。

【山岸会長】

- ・ほかにないか。なければ次回の地域協議会の日程について確認する。2 月 20 日午後 6 時 30 分からで良いか。
(異議なし)
- ・最後に閉会の挨拶を薄波副会長にお願いする。

【薄波副会長】

- ・以上で第 8 回吉川区地域協議会を閉会とする。

10 問合せ先

吉川区総合事務所 総務・地域振興グループ

Tel : 025-548-2311 (内線 213)

E-mail : yoshikawa-ku@city.joetsu.lg.jp

11 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。